

明治以降

檀家制度は寺墓を持つゆえに葬式・法要を媒体としての儀式のみ続いている、現状になってしまった。

このような宗教上の縛りが福嶋だけではなく、この地方全体の、生活規範に大きな影響を及ぼす事になる。

法事と御講と御書様

現在でも「法事」の案内は、各自の檀那寺から通知が来て、親類・縁者が、集まって法事を行うし、その為の用意や、心つもりは「ばあ」の手腕を発揮する場面である。

また「御講」というグループが檀家制度以外に出来ているのがこの町の独特の宗教上の『集まり』になっている。

これは、宗教上の「仲良しクラブ」のようなもので、能美郡内の独特の集会である。

このグループの中心になっているものは「御文様」と呼んでいるもので、福嶋に確認できるだけで、公民館に三部、私は、小松市の『西勝寺』のものも預かっている。

従って、従来は、この講を実施するためには、常に道具を調べ、他家の

付き合いは、経験豊富な「ばあ」の仕事である。

福嶋の童唄

べたべた雪降ってきた

べたべた 雪や 降ってきた 閑所の戸も 閉めさんせ

大戸の戸も閉めさんせ 摺り鉢かぶつて走らんせ。

お月さんいくつ

お月さん いくつ 十三・七つ まだ年や若い

ねんね生んで 子生んで 乳母さに抱かいて

油買いにやったらば 油屋の前で とつとと滑って

油一升かやいた その油どうした 犬が舐めてしもた

その犬どうした 殺してしもた その皮どうした

太鼓に張つてしもた その太鼓どうした 燃やしてしもた

その灰どうした よんべの嵐と今朝の嵐で

ばつぱつと立ってった